

第8回「青少年のための科学の祭典2005」奈良大会

科学の祭典実行委員会事務局

松山 豊樹

はじめに

科学技術が高度化し社会生活の利便性が急速に進んでいく中で、青少年の理科離れ・数学離れが大きな社会問題になっている。小中学校における理科・算数・数学の教科内容が大幅に削減され、その影響が心配されていた。そしてついに国際学力調査機関による調査結果で、日本の青少年の学力の低下が指摘される事態に陥っている。このような状況に対処するためにも「青少年のための科学の祭典」奈良大会を本年も開催し、県下の若い人たちに科学の面白さを体験してもらう機会を提供した。

大会準備

準備は夏休み直前から急ピッチで行われた。企業への協賛・出展依頼、ポスター・パンフレット作成・配布、出展受付、報道機関への対応、出展者説明会、学生ボランティアの編成、ガイドブック原稿の収集、ガイドブック作成、ブースの配置、会場図・ブースプレートの完成、実行委員会委員の大奮闘で、何とか無事にすべての準備を完了することができた。

大会の様子

大会は、平成17年11月12日（土）・13日（日）の両日に実施された。大会前日、あいにくの雨の中、会場設営を開始。夕刻から、実行委員と学生ボランティアにより、各教室のブース作り、野

外テントの設営が行われた。そこに、出展者が続々と機材を搬入し、ブース設営準備は夜20時まで行われた。

大会当日、朝6時には森精機のマザーマシン搭載の大型トレーラーが入場。以後、学内入構は、祭典実行委員会の管理下におかれ、学生ボランティア中心の警備体制が敷かれた。それから出展者の入構が続く、ブースの準備が着々と進められていった。

来場者の入構が続く中、10時から奈良教育大学学長、奈良県教育委員会、日本物理教育学会近畿支部からの来賓を迎え、開会式を開催。そして、10時30分から各ブースの運営が開始された。

今回の大会の特徴は、大きく

1. 出展ブース数が例年の50前後を大きく上回る80ブース出展された。
2. 例年、数少ない生物系のブースが今年は数多く出展された。
3. 高校からの出展が急増し、高校生自らがブースの運営にあたった。

大会規模は、奈良県下過去最大になった。80ブースを収容するために、奈良教育大学の講義棟全部、学生会館内山田ホール、



木製ハイブリッドカー「もっくん」に乗ろう



スペースシャトルを作って飛ばそう

附属小学校、野外テント、理科棟実験室等、キャンパス全域に会場が設置された。附属小学校会場に生物系のブースが出展され、子どもたちに好評だった。高校生自らが実験・演示に打ち込む姿は印象的だった。工作ブースでは、材料がたちまち尽きる人気ブースも出ていた。

期間中は天候にも恵まれ、この時期、奈良県下で多くの催し物が重なっている中、来場者数は2日間で約2000名にのぼった。親子連れの来場者が多く、また、今回目立ったのは例年は少ない中学生の入場が多かった点だ。2日間事故も無く、大盛況の内に、無事全ての日程を終了した。

科学の祭典



果物や野菜を使って電気をつくろう



光さんまっすぐ進んでいるつもり？



算数（数学）の世界を感じてみよう



大会を終えて

今回の大会で例年と大きく違ったのは、何よりもブース数が80という過去に経験のない規模になった点だ。例年の50前後を想定していたため、運営面ではいくつかの困難が生じた。まず、ガイドブックのページ数が増え、予算面で圧迫された。会場図を用意したものの会場が大きく広がったため、目的のブースを探すのが難しくなった。ただし、出展者・来場者からは「ブースあたりの来客数が減り、空間的・時間的に余裕を持って楽しめた」との声が多数あった。アンケート調査でも、今年の大会は来場者には満足度が高かったようだ。

保護者、一般来場者からは、すでに次年度の開催予定に関する問い合わせが寄せられている。毎

年、参加してくれている来場者も着実に増えている。8年の実績を踏まえ、今後も、着実に継続していくことが重要だと考える。平成18年度は、奈良高専を会場に10月14日・15日に開催することを予定している。

ロボットサッカーをあなたの手で体験



備長炭電池で電気がおこるしくみについて知ろう！